今回は、3つの展示を取材しました。じっくり時間をかけてみていたね。感じたことをまとめる方法は得意なやり方で。みんなスラスラと筆を進めている様子が印象的でした！



立石 学芸員

企画展

はじまりの火山

Primal Volcano

石川直樹 展

4.18[土]▶6.21[日]

写真展をみて感じたことを、文章や絵で表現したよ！



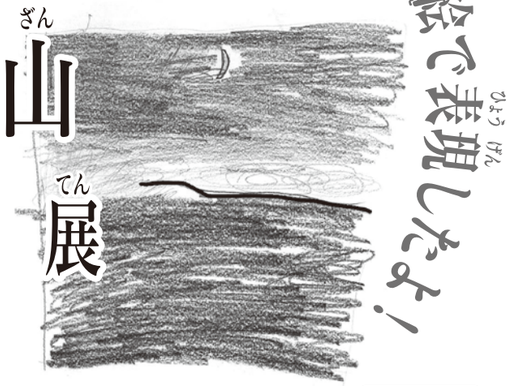


イラスト 大原ちづる

写真家の石川直樹さんがイタリアの地中海の火山を撮影した写真展を取材しました！部員たちは、大小51点の作品を、まわって、絵や文章、自分の得意な方法で記事にしています！ （編集部）

火山とは、マグマがふき出ているイメージだけれど、写真を見ると静かで、きれいな山がたくさんあった。ふんかによって、土地の形が変わるけどちゃんと植物もはえてきて、長い歴史を感じた。 （田野心絆）

・写真にてんとう虫がいて、火山にもいるんだなと思いました。
・ふん火した後でも、雪が頂上に残っていることが意外だった。
・ふん火した後には、最初に生えるのは、苔だということが書かれていて、写真もふん火した2週間後にとったと書かれていたので、写真には、苔だけがたくさん生えているんだなと思いました。

（小原幸悠）

たくさんの雲が大きな空にういている。真ん中には、白い雲がういている。その周りには、黒っぽい雲がういている。左下には、黒いお山がある。黒い雲はけむりにも見える。何があったのかな。 （田野菜絆）

だれがすんでる？くさのいえ



イラスト 岡本 和

イラスト 小原涼葉

どの写真も、特別「美しい」というわけではないが、何か目をひかれるようなものがあった。何なのかわからない青い光。あわいオレンジ色の石、泳いでいる人。ただの写真なのに、信じられないくらいの鮮明さを覚えた。

個人的には、山の上で少しばかり炎で燃えている木のえだや切りかぶがある写真が気に入った。周りの音も相まって、コーという風の音や、グシャッという足音がきこえるようだった。

たまには見えないのもいい。きりでかすんでみえるふねにのっている日は、一人旅をしているのだろうか。のんきにねている姿をも想像できる。きりは、こんなにも人をうごかすことがあるのだろうか。

上空でとったような写真。どうやってとったのだろう。どうして上からとろうと思ったんだろう。小さい、大きい石がころころころがっていそうな坂。何もうごかない写真からうごきを感じさせら れる。石川さんはすてきだ。

だれかがプロポーズしていそうな、草むら。白とあわいオレンジの花(ばら?)がおいてある。やっぱりプロポーズかな。草むらのおくでは、山からでるけむりで姿がかすんでいる山があった。この写真は、プロポーズしようとした人によばれてきた人目線なのかもしれない。きっと頭には、うれしいような目映いような気持ちなのかなと思った。

ここでは、「周りの音も相まって」と書いた、その「音」について書き記そうと思う。もともと博物館は静かだ。人もいたので、カツコツと足音もひびいていたし、ふんいきも静けさのある、ほんのりつめたい水のような空気だった。私は人ごみがもともとあまり好きではなく、周りにはだれもいないので、ゆっくり冷静に考えられたので、よかった。自然と心も穏やかになった。ふんいきは大切だと思った。 （田中瑞紀）

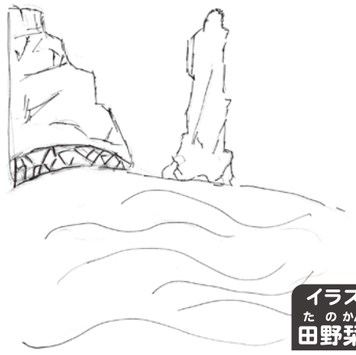


イラスト 田野菜絆



イラスト 市川彩音

特集展示

4.18[土]▶6.21[日]

「はっけん！樽前山～登山道で出会う自然」

苫小牧にある火山・樽前山の自然をテーマにした展示会です。噴火で出た岩石、厳しい環境で子育てをする野鳥や花を咲かせる高山植物など、標本や映像で詳しく紹介しました。また、樽前山に登るような気分で独特の生態系を楽しんでもらおうと、オリジナルのマップを入口で配りました。この展示を通して、樽前山の意外な一面や、命のつながりをたくさんの人が「はっけん」する機会となっていたら嬉しいです。



江崎 学芸員



イラスト 大橋尊人

イラスト 山本丈太郎

広報紙「びとこま」第36号／2-3ページ［2026年8月発行］ 編集：子ども広報部 びとこま、苫小牧市美術博物館、NPO法人 樽前artyプラス 発行：苫小牧市美術博物館（北海道苫小牧市末広町3丁目9-7）